第一生命
NEWS 宅配便
第一生命保険相互会社 〒100-8411 東京都千代田区有楽町1-13-1 ●お問い合わせ広報課 TEL(03)5221-3235 ●http://www.dai-ichi-life.co.jp/

2006年4月

全国の30～60代の既婚者800名に聞いた『同棲とプロポーズに関するアンケート調査』

～30代の5人に1人は“同棲経験あり”、同棲相手とは7割以上が結婚している～

第一生命保険相互会社（社長 斎藤 勝利）のシンクタンク、（株）第一生命経済研究所（社長 石嶺 幸男）では、全国に居住する30～60代の既婚男女800名を対象に、標記についてのアンケート調査を実施いたしました。
この程、その調査結果がまとまりましたのでご報告いたします。

≪調査結果のポイント≫

同棲に対する意識と実態 (P2～P8)

○実際に同棲したことがある人は、全体では12%。年代別では30代が最も多く、5人に1人は同棲経験がある (P2)。
○同棲した理由は「好きだからとにかく一緒にいたいと思った」が突出して多く、「相手との相性を確かめたかった」のように結婚を意識した相性確認の目的は少ない (P3)。
○同棲期間は過半数が1年未満で、年代別では30代の同棲期間が長い傾向がある (P4)。
○同棲相手とは7割以上が結婚している (P5)。
○同棲経験が結婚生活に与えた影響は、「結婚後への自信につながった」が最も多い (P6)。
○同棲したいと思ったことがある人は、全体では2割にも満たない。性別では女性よりも男性の方が同棲願望は強い。年代別では30代が最も強く、3人に1人は思ったことがある (P7)。
○同棲したくてもできなかった一番の理由は「(自分や相手が)親と同居だったから」。特に、親との同居を理由とするのは30代で最も多く、約半数を占めている (P8)。

プロポーズの実態 (P9～P10)

○全体の4分の3は「夫の方から」プロポーズをしており、「妻の方から」はほとんどいない。また、明確なプロポーズはどちらからもせず“何となく”結婚した人が2割いる (P9)。
○プロポーズの言葉を“はっきりと”、あるいは“何となく”覚えている人は約7割。しかし、30代男性の9割以上が覚えているのに対し、30代女性の2割はあまり覚えていない (P10)。

交際期間の実態 (P11)

○全体の3分の1以上は交際期間「1年未満」で結婚している。また、30代・40代では交際期間3年以上の割合が増え、結婚までの交際期間が長期化している (P11)。

＜お問い合わせ先＞
㈱第一生命経済研究所 ライフデザイン研究本部
研究開発室 広報担当（丹野・新井）
TEL. 03－5221－4771
FAX. 03－3212－4470
【アドレス】http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi

☆本報告書のデータの一部は、当研究所から隔月発行している『ライフデザインレポート』5-6月号（5/1発行）にも掲載しています。レポートご希望の方は、左記の広報担当へ、またはホームページからご照会ください。

≪アンケート調査の実施概要≫

１．調査地域と対象　　**全国に居住する 30～60 代の既婚男女**

２．サンプル数　　**800 名**

３．サンプル抽出方法　　**第一生命経済研究所生活調査モニター**

４．調査方法　　**質問紙郵送調査法**

５．実施時期　　**2006 年１月**

６．有効回収数(率)　　**769 名（96.1%）**

７．回答者の属性

単位：人）

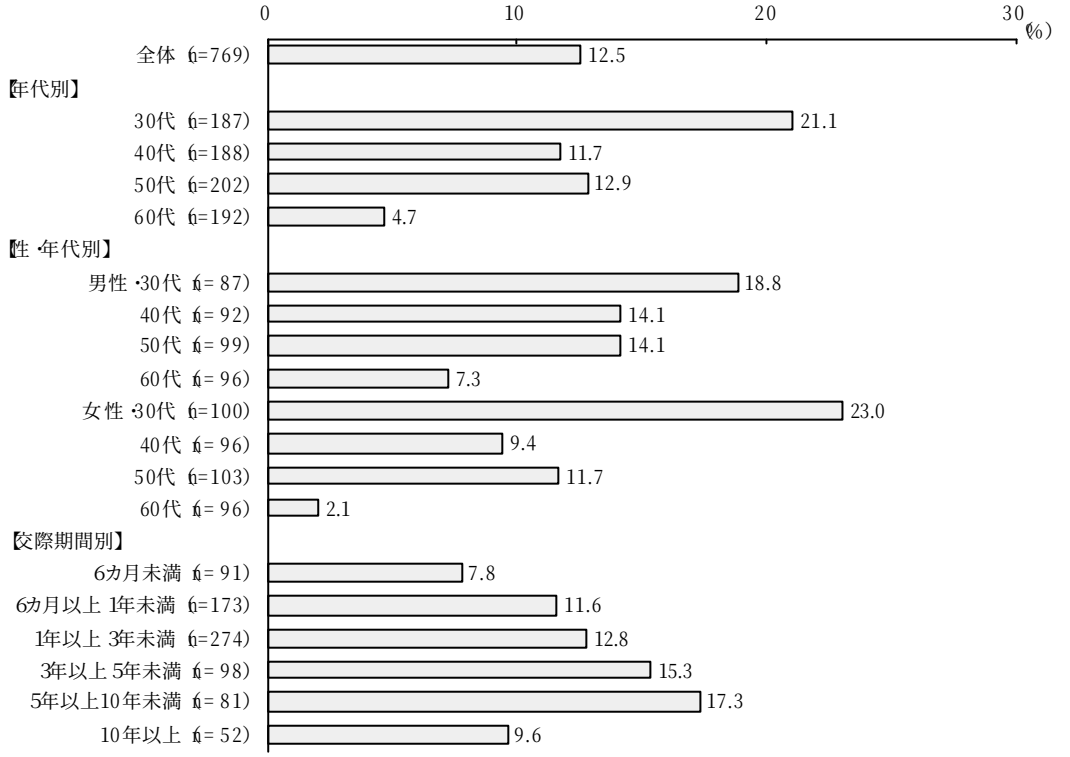
	年代				合計
	30 代	40 代	50 代	60 代	
男性	87	92	99	96	374
	（23.3%）	（24.6%）	（26.5%）	（25.7%）	（48.6%）
女性	100	96	103	96	395
	（25.3%）	（24.3%）	（26.1%）	（24.3%）	（51.4%）
合計	187	188	202	192	769
	（24.3%）	（24.4%）	（26.3%）	（25.0%）	（100.0%）

DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

同棲したことはあるか？

結婚前に同棲したことがある人は、全体の 12%。
年代別では、30 代（21%）が最も多く、5人に 1人は同棲経験がある。

図表１ 同棲経験の有無（全体、年代別、性・年代別、交際期間別）
【同棲したことがある」割合】



結婚前に同棲したこと（特定の異性と結婚の届出なしで一緒に生活したこと）はあるかどうか、を尋ねました。

その結果、**全体では、「同棲したことがある」と回答した割合は 12.5%**でした。

年代別では、**30 代（21.1%）の割合が最も高く、５人に１人は同棲経験があること**がわかりました。また、60 代と 50 代以下の間には大きな差があり、戦前・戦後世代で同棲経験に差があることがみてとれます。

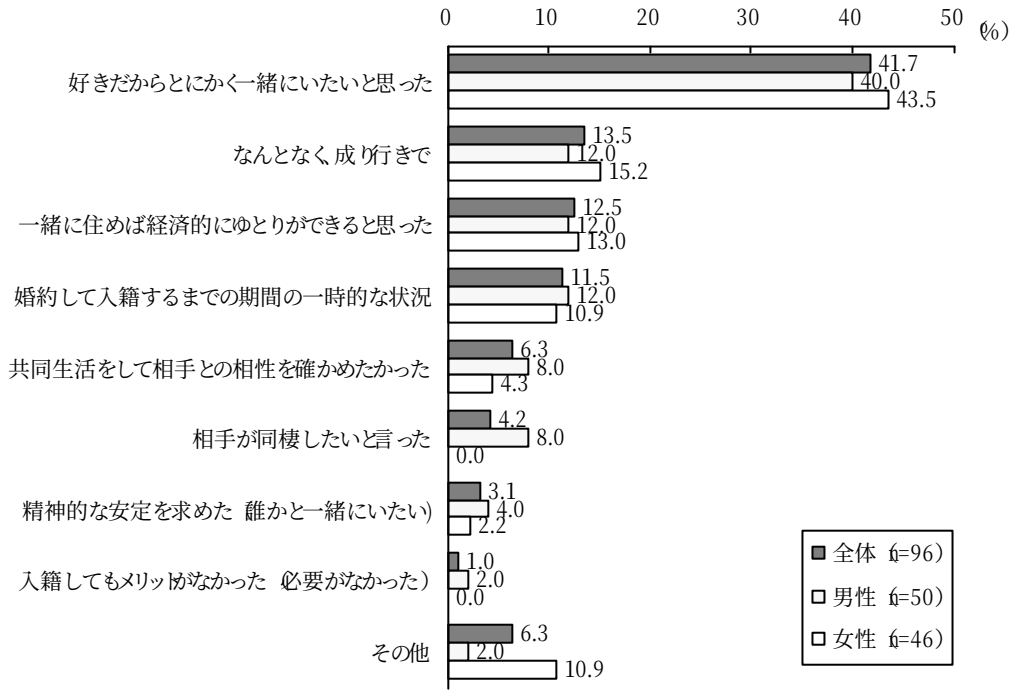
性・年代別では、女性の 30 代（23.0%）の割合が最も高く、同時に、男性よりも女性の割合が高い唯一の年代となっています。

交際期間別では、交際期間が長くなるほど同棲経験ありの割合も高くなりますが、交際期間が 10 年以上になるとその割合は低くなります。

同棲した理由は？

好きだからとにかく一緒にいたいと思った」(41%)が突出して多く
共同生活をして相手との相性を確かめたかった」(6%)のように
結婚を意識した相手との相性確認の目的は少ない。

図表２ 同棲した理由（全体、性別）＜複数回答＞



注：「同棲したことがある」人のみ

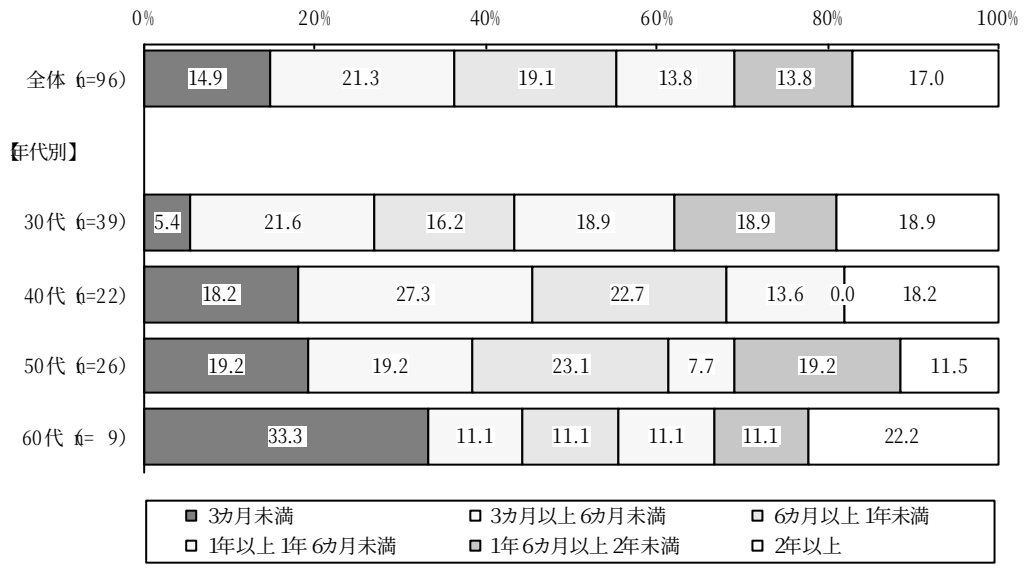
前頁において「同棲したことがある」と回答した人に対し、なぜ同棲をしたのか、その理由を尋ねました。

その結果、**全体では、「好きだからとにかく一緒にいたいと思った」（41.7%）といった感情的な理由が突出して多く、「共同生活をして相手との相性を確かめたかった」（6.3%）のように、結婚を意識した相手との相性確認を目的とした同棲は少ないこと**がわかりました。また、「入籍してもメリットがなかった（必要がなかった）」といった事実婚を目的とした同棲理由もほとんどありませんでした。

どのくらいの期間同棲していたか？

全体では、過半数（55%）が1年未満で、3分の1（36%）が6カ月未満。
他の年代に比べて30代の同棲期間は長く、過半数（56%）が1年以上。

図表３ 同棲期間（全体、年代別）



注：同棲したことがある」人のみ

同じく、「同棲したことがある」と回答した人に対し、どのくらいの期間同棲していたか、を尋ねました。

その結果、全体では、「３カ月以上６カ月未満」（21.3%）が最も多く、次いで「６カ月以上１年未満」（19.1%）の順になりました。これに「３カ月未満」（14.9%）を加えると**55.3%と過半数が同棲期間１年未満であること**がわかりました。さらに、「３カ月未満」と「３カ月以上６カ月未満」をあわせると、**36.2%と３分の１以上が６カ月未満であること**もみてとれます。

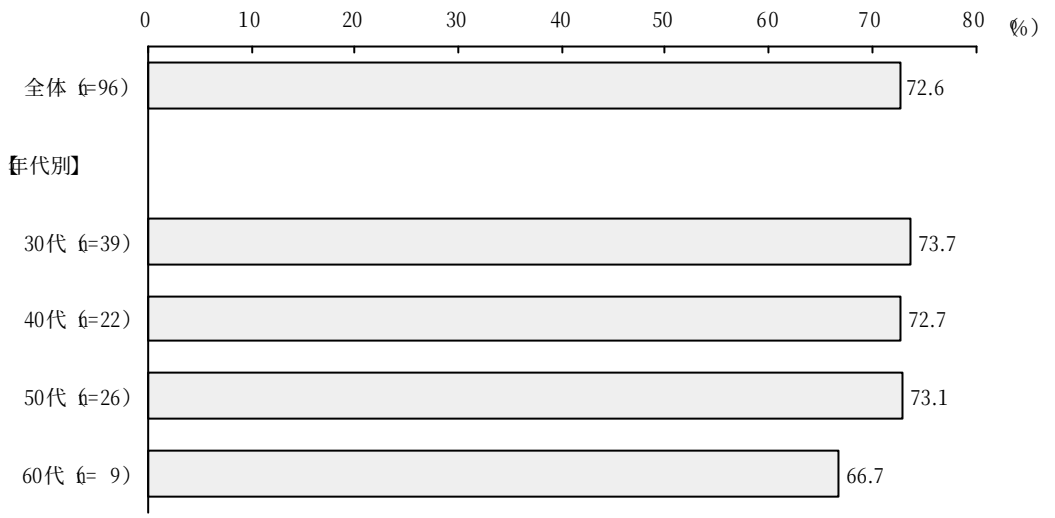
年代別では、**“１年以上”（「１年以上１年６カ月未満」＋「１年６カ月以上２年未満」＋「２年以上」）の割合が過半数と最も高いのは30代（56.7%（18.9%＋18.9%＋18.9））で、この年代は他に比べて同棲期間が長い傾向があること**がみてとれます。

DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

同棲相手とは結婚したか？

全体では、7割以上（72%）の人が同棲相手と結婚している。

図表４ 同棲した相手とは結婚したか？（全体、年代別）
【「結婚した」割合】



注：「同棲したことがある」人のみ

同じく、「同棲したことがある」と回答した人に対し、その同棲相手とは結婚したかどうか、を尋ねました。

その結果、**全体では、72.6%と７割以上の人が実際に同棲相手と結婚したこと**がわかりました。

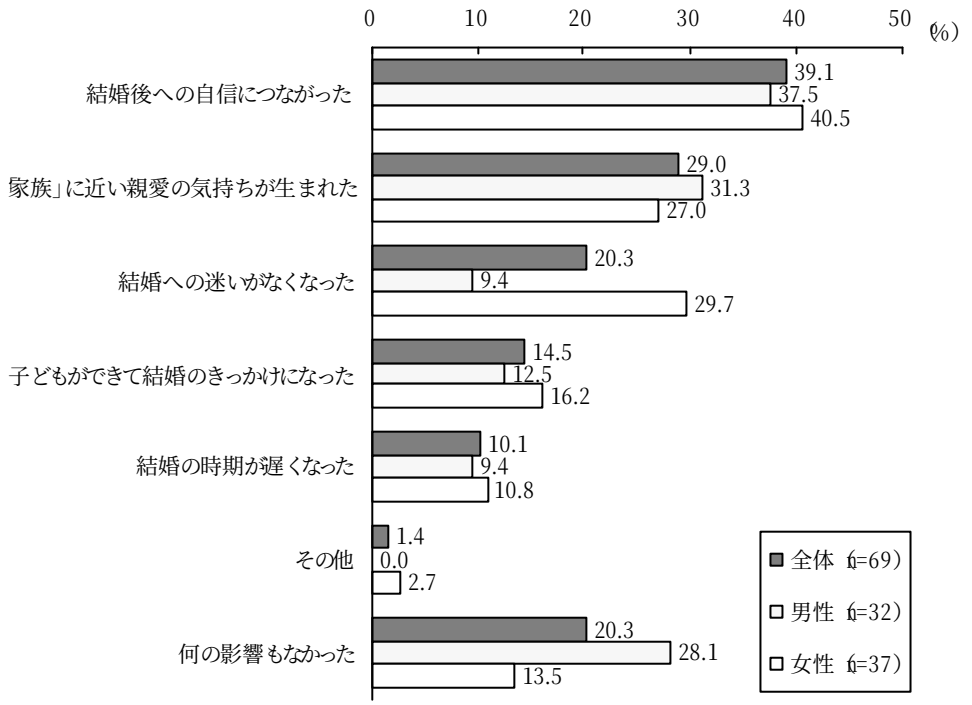
年代別では、年代間における差は特にみられませんでした。

DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

同棲経験は結婚生活にどのような影響を与えたか？

全体では、「結婚後への自信につながった」（39%）が最も多い。
「結婚への迷いがなくなった」は女性（29%）、
「何の影響もなかった」は男性（28%）に多い。

図表５ 同棲経験が結婚生活に与えた影響（全体、性別）＜複数回答＞



注：「同棲したことがある」「同棲相手と結婚した」人のみ

同じく、「同棲したことがある」と回答した人に対し、その同棲経験が実際の結婚生活にどのような影響を与えたか、を尋ねました。

その結果、**全体では、「結婚後への自信につながった」（39.1%）が最も多く**、次いで「『家族』に近い親愛の気持ちが生まれた」（29.0%）、「結婚への迷いがなくなった」（20.3%）の順になりました。一方、「何の影響もなかった」（20.3%）割合も５人に１人いました。

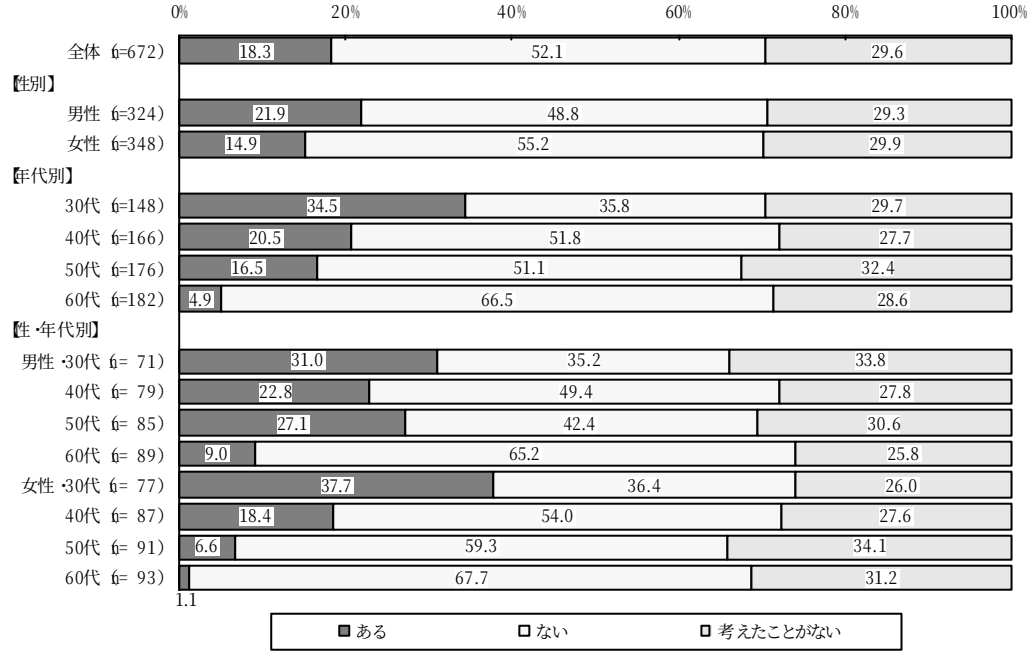
性別では、男女差が大きいのは「結婚への迷いがなくなった」と「何の影響もなかった」でした。**「結婚への迷いがなくなった」については、男性（9.4%）に比べて女性（29.7%）の割合が高く、約３割の女性は同棲することによって結婚への決断が促されたこと**がみてとれます。また、**「何の影響もなかった」については、女性（13.5%）に比べて男性（28.1%）の割合が高い結果**になりました。

DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

同棲したいと思ったことはあるか？

同棲したいと思ったことが「ある」人は、全体の 2割（18%）にも満たない。
性別では、女性（14%）よりも男性（21%）の方が同棲願望は強い。
年代別では、30 代が最も同棲願望が強く、約 3分の 1（34%）が「ある」。
性・年代別では、50 代の性差が大きく、男性（27%）は願望が強かった。

図表 6 同棲したいと思ったことの有無（全体、性別、年代別、性・年代別）



注：「同棲したことがない」人のみ

「同棲したことがない」人に対し、同棲したいと思ったことはあるかどうか、を尋ねました。

その結果、**全体では、「ある」と回答した割合は 18.3%と、同棲したいと思ったことがある人は２割にも満たないこと**がわかりました。

性別では、**女性（14.9%）に比べて、男性（21.9%）の方が同棲願望は強い**ようです。

年代別では、低い年代ほど同棲願望は強く、**「ある」と回答した割合が最も高い 30 代は、３分の１以上（34.5%）が同棲願望を持っていたこと**がわかりました。

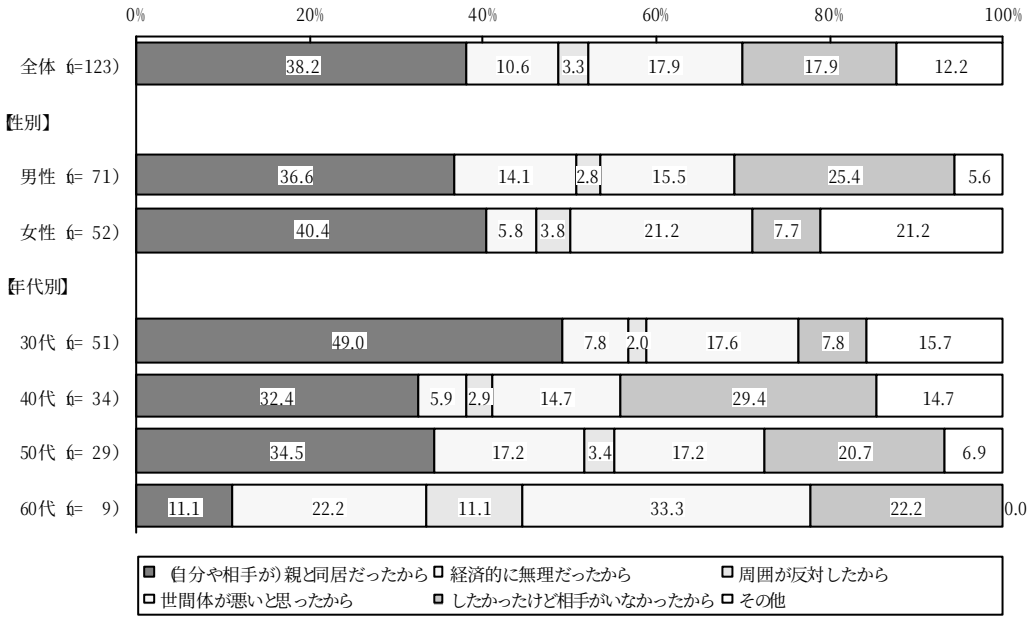
性・年代別では、最も同棲願望が強いのは 30 代の女性（37.7%）で、最も低いのは 60 代の女性（1.1%）でした。また、**男女差が大きい年代は 50 代で、女性の 6.6%に対して男性は 27.1%と、50 代の男性は当時同棲願望が強かったこと**がみてとれます。

DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

同棲しなかった（できなかった）理由は？

全体では、「自分や相手が）親と同居だったから」（38%）が最も多い。
年代別では、30 代の約半数（49%）が「親と同居だったから」を理由に。

図表７ 同棲しなかった（できなかった）理由（全体、性別、年代別）



注：同棲したいと思ったことが『ある』」人のみ

前頁において「同棲したいと思ったことが『ある』」と回答した人に対し、同棲しなかった（できなかった）のはなぜか、その理由を尋ねました。

その結果、**全体では、「（自分や相手が）親と同居だったから」（38.2%）が最も多く、**次いで「世間体が悪いと思ったから」「したかったけど相手がいなかったから」（同率 17.9%）の順になりました。

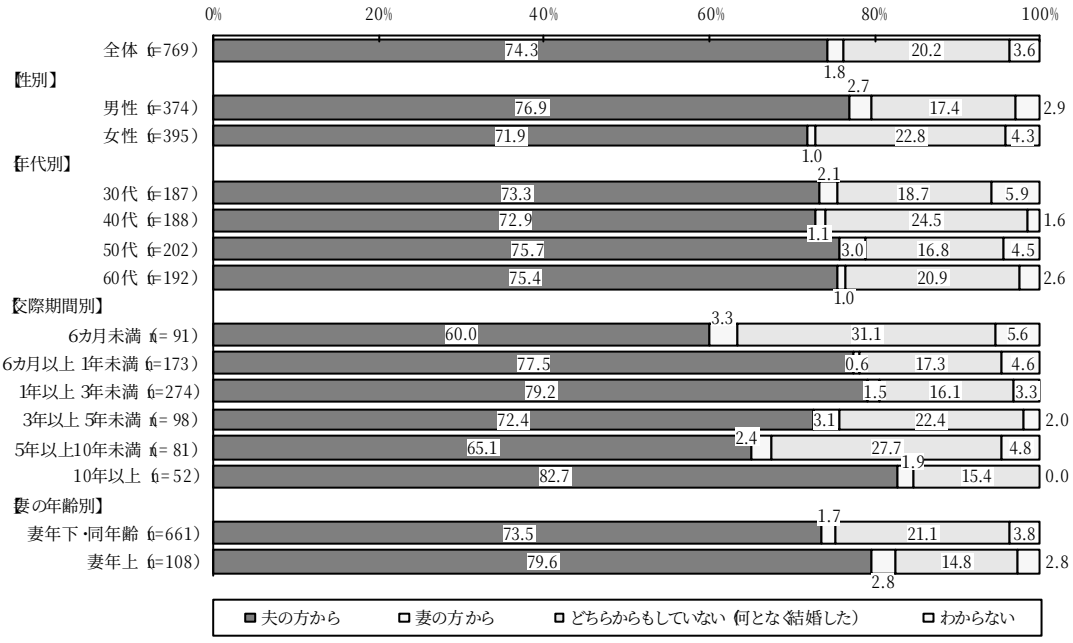
性別では、「親と同居だったから」「世間体が悪いと思ったから」については男性よりも女性に多く、「経済的に無理だったから」「したかったけど相手がいなかったから」については女性よりも男性に多いことがみてとれます。

年代別では、**30 代において「親と同居だったから」（49.0%）といった理由が約半数を占め、この年代では特に、いわゆるパラサイト化の進展が同棲になんらかの影響を与えている可能性があること**が示唆されました。また、年代を問わず「世間体が悪いと思ったから」は上位を占め、特に、60 代では 33.3%と最も高くなっています。

プロポーズはどちらからしたか？

全体では、約4分の3（74%）は「夫の方から」プロポーズをしている。
その一方で、「どちらからもしていない（何となく結婚した）」も2割いる。

図表８ プロポーズはどちらからしたか？（全体、性別、年代別、交際期間別、妻の年齢別）



結婚する際に、プロポーズは夫婦どちらからしたか、を尋ねました。

その結果、全体では、「妻の方から」（1.8%）はほとんどおらず、**「夫の方から」が 74.3%と、約４分の３は男性の方からプロポーズをしていること**がわかりました。しかし、その一方で、**「どちらからもしていない（何となく結婚した）」人も 20.2%おり、具体的なプロポーズの言葉なしで結婚した人も２割いること**がわかりました。

性別では、「夫の方から」と回答した割合は女性よりも男性が高く、逆に、「どちらからもしていない」とした割合は男性よりも女性が高い結果になりました。このことから、男性が自分からプロポーズしていると思っていても、女性はそうとは思っていないという男女の意識のずれがあることも考えられます。

年代別では、30 代・40 代に比べ、50 代・60 代の方が、わずかながら「夫の方から」の割合が高いことがみてとれます。

交際期間別では、交際期間が最も短い「６カ月未満」において、「夫の方から」の割合が60.0%と最も低く、はっきりとしたプロポーズなしで何となく結婚した夫婦が多いことがわかります。また、交際期間が６カ月以上からは「どちらからもしていない（何となく結婚した）」割合が増加しますが、「10 年以上」になると「夫の方から」が８割超（82.7%）になり、交際が長期化すると男性からプロポーズしていることがみてとれます。

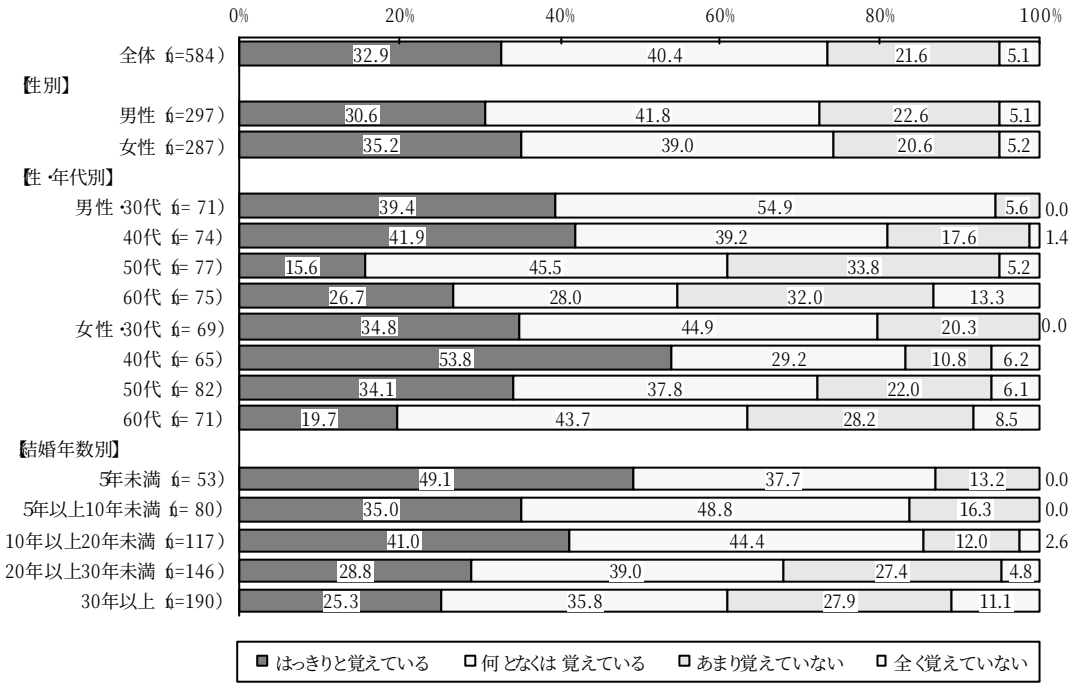
妻の年齢別では、妻年上（いわゆる“姉さん女房”）の方が、「夫の方から」の割合が高く、年下の夫は積極的にプロポーズをしていることがみてとれます。

DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

プロポーズの言葉を覚えているか？

“はっきりと”“何となく”をあわせると、全体の約 7割はプロポーズの言葉を覚えている。しかし、30 代女性の 2割は あまり覚えていない」。

図表９ プロポーズの言葉を覚えているか？ 全体、性別、性・年代別、結婚年数別）



注 :夫婦どちらからかプロポーズがあった人のみ

前頁において、夫婦どちらからかプロポーズがあったと回答した人に対し、プロポーズの言葉を覚えているかどうか、を尋ねました。

その結果、**全体で最も多いのは「何となくは覚えている」（40.4%）で、次いで多い「はっきりと覚えている」（32.9%）とあわせると、７割以上（73.3%）はプロポーズの言葉を覚えていること**がわかりました。

性別では、「はっきりと覚えている」割合は、男性（30.6%）よりも女性（35.2%）の方が高く、実際にプロポーズをした男性の方がその言葉を覚えていないことがみてとれます。

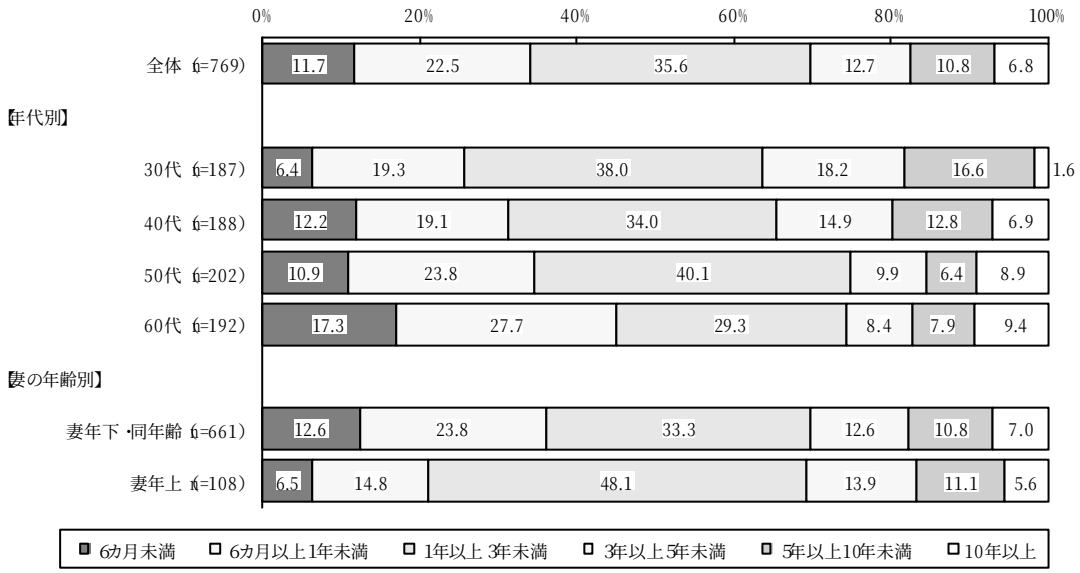
性・年代別では、男女ともに年代が上がるにつれて“覚えていない”（「あまり覚えていない」＋「全く覚えていない」）割合が高くなります。特に、**男性の 30 代は“覚えていない”割合が 5.6%しかいないのに対し、女性の 30 代は 20.3%もおり、比較的プロポーズを最近受けているはずの 30 代女性が、言われた言葉をあまり覚えていないという実態**がみてとれます。

結婚年数別では、年数が経つにつれて“覚えている”（「はっきりと覚えている」＋「何となくは覚えている」）割合は低くなりますが、30 年以上経っても 61.1%（25.3%＋35.8%）と約６割の人はプロポーズの言葉を“覚えている”ことがわかりました。

結婚前の交際期間は？

全体の 3分の 1以上（34%）は、交際期間 1年未満で結婚している。
年代が上がるほど、交際期間 1年未満で結婚した割合は高くなる。
30 代と40 代では 3年以上の割合が高く、交際期間が長期化している。

図表 10 現在の配偶者と結婚するまでの交際期間（全体、年代別、妻の年齢別）



現在の配偶者と結婚するまでの交際期間はどのくらいだったか、を尋ねました。

その結果、全体では、「１年以上３年未満」（35.6%）が最も多く、次いで「６カ月以上１年未満」（22.5%）、「３年以上５年未満」（12.7%）の順になりました。また、「６カ月未満」（11.7%）と「６カ月以上１年未満」（22.5%）をあわせると、**１年未満で結婚した人は 34.2%おり、全体の３分の１以上が交際期間１年未満で結婚して**いました。

年代別では、**高い年代ほど交際期間１年未満で結婚した割合が高く**なります。この背景には、高い年代はお見合い結婚が多く、若い年代は恋愛結婚中心になってきていることがあると考えられます。特に、**30 代と 40 代においては３年以上（「３年以上５年未満」＋「５年以上 10 年未満」＋「10 年以上」）の割合が高く、若い年代の交際期間が長期化していること**を表しています。

妻の年齢別では、妻年上（いわゆる“姉さん女房”）の方が、交際期間１年未満で結婚している割合は低く、その分「１年以上３年未満」（48.1%）の割合が高くなっています。

≪研究員のコメント≫

本アンケート調査は、既婚男女が結婚するまでの過程の実態を理解すべく、同棲経験の有無やプロポーズ、交際期間などのテーマをもとに実施したものです。

近年他の先進諸国の中には、婚姻の枠外で子どもを産み、育てることが一般化している国（スウェーデン、フランスなど）があります。同棲や事実婚などの非婚カップルの出生力が減少傾向にある婚姻出生を補い、出生率全体を押し上げる効果もみられます。

日本では、婚前妊娠（いわゆる“出来ちゃった結婚”）が増える一方で、非婚カップルの間に生まれる婚外子の数は非常に低い水準です。今回のアンケートでは、日本でも先の先進諸国同様に非婚カップルや婚外出生など、多様な「家族」の萌芽がみられるかという点にも注目しました。

調査結果からは、既婚男女の 10 人に１人、30 代では男女ともに５人に１人が同棲を経験していることがわかりました。また、**年代差は 60 代と 50 代以下の間で顕著で、戦前・戦後世代で大きく差がでる結果**となりました。同棲したいと思ったことのある人は、30 代の女性が４割近くと最も高く、これは同年代の男性をも上回る水準です。さらに、**女性の方が年代間格差も大きく、30 代は 60 代の実に 30 倍以上と、意識変化の早さ**を示しています。

同棲願望があっても実現しなかった理由の第１位として、全体の４割近くが親との同居をあげ、特に 30 代では約半数を占めています。これにより、いわゆる**パラサイト化の進展がカップル形成になんらかの影響を与えている可能性**が示唆されました。

同棲経験者の４割が「好きだから」同棲したとしており、７割以上がその相手と結婚しています。また、同棲期間は１年未満が５割を超え、結婚後への自信や親愛の気持ちが生まれたという人は男女差があまりない一方で、同棲によって結婚への迷いがなくなったのは男性の１割に対して女性が３割と、**同棲が結婚の決断に役立ったのは女性の側に多い**ようです。

結婚を決定づけるプロポーズは男性からが４分の３ですが、はっきりとしたプロポーズの言葉なしに何となく結婚した人も２割います。また、大切なプロポーズの言葉をなんとなくでも覚えている人の割合は全体で７割、最も高い 30 代の男性では９割を超えています。結婚前の交際期間は３人に１人は１年未満ですが、お見合い結婚の減少などのためか、若い年代ほど交際期間が長くなる傾向がみられました。

異性とのお付き合いの仕方は、世代によって大きく異なります。今回の調査では、同棲願望が強いのにも関わらず、親との同居でなかなか同棲に踏み切ることができないという若い世代の傾向を垣間みることができました。

（研究開発室 副主任研究員　殿村 琴子）